

## 【口頭発表】

## 効果的プログラムモデル形成のための実践家参画型評価アプローチ法の開発 —評価人材育成方法、支援アプローチ法に注目して—

○ 日本社会事業大学 大島 巖 (228)

新藤健太 (日本社会事業大学・8608)、贅川信幸 (日本社会事業大学・7947)、大山早紀子 (日本社会事業大学・7867)  
中越章乃 (神奈川県立大学・7349)、方真雅 (日本社会事業大学・8609)、児玉桂子 (日本社会事業大学・1659)

キーワード：プログラム評価、参加型評価、科学的根拠にもとづく実践 (EBP)

### 1. 研究目的

近年、社会福祉領域においても、科学的根拠にもとづく効果的な実践(EBP)プログラムへの関心が高まり、成果志向型の効果的福祉プログラムモデルの形成評価アプローチに新たな進化が認められるようになった。その中で効果的な実践モデルを開発し、効果モデルを形成して、それを実施・普及するためには、実践家がこれらの評価活動に日常的に、積極的に参画することが不可欠である。しかしその評価アプローチ法はまだ確立していない。またその評価アプローチ法を日常的な実践現場において実行に移すためには、実践家を含む福祉人材の中に、福祉プログラム評価の方法論を身に付けた評価人材を積極的に育成し、継続的に支援する体制を構築する必要がある。

私たちは、2010年度に本学会で報告した「プログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話による、効果的福祉実践プログラムモデル形成のためのアプローチ法(CD-TEP法)」を活用して、実践家が積極的に評価活動に参画することを促進する評価アプローチ法を開発して来た。本演題では、これまで私たちが構築して来た効果的福祉実践プログラム形成のための実践家参画型評価アプローチ法の全体像を提示するとともに、福祉人材の中に実践家参画型評価の方法論を身に付けた評価人材を育成する方法、それら人材を継続的に支援する体制・アプローチ法について検討する。

### 2. 研究の視点および方法

#### 1) 評価ステージと検討した福祉実践プログラム

対人サービス領域の実践家が参画・協働するプログラム評価において求められる評価アプローチは、次の3評価課題ステージに整理できる。すなわち、第Ⅰステージ：効果的プログラムモデル開発評価ステージ、第Ⅱステージ：効果的プログラムモデルの継続的改善・形成評価ステージ、第Ⅲステージ：効果的プログラムモデルの実施・普及評価ステージである。各ステージでEBPプログラムの形成をめざし、第Ⅲステージではその実施普及をめざす。評価課題ステージごとに取り上げた福祉実践プログラムは、12プログラム(第Ⅰステージ：コミュニティソーシャルワーカー研修・配置プログラムなど5プログラム、第Ⅱステージ：就労移行支援プログラムなど5プログラム、第Ⅲステージ：家族心理教育など2プログラム)である。

#### 2) 「効果的プログラムモデル」の構成要素

CD-TEPアプローチ法の共通基盤6方式に対応して、効果的プログラムモデルを構成する要素(Effective Model Components 1-5)を、次の5点から整理することとした。すなわち、EMC1) 効果モデルのプログラムゴールとその達成過程を示すインパクト理論  
EMC2) プログラムゴールを実現するためのプログラム設計図に当たるプロセス理論  
EMC3) チェックボックス形式で記述した効果的援助要素(critical components)のリスト  
EMC4) 効果的援助要素とプログラムアウトカムを測定するための評価ツール  
EMC5) 以上の内容を記載した効果モデル実施マニュアル

本研究では「効果モデル」を以上5要素から操作的に定義し、福祉実践家がこれらの継続的な改善を具体的に行うための方法論を検討する。

#### 3) 福祉実践家における評価人材

当面、次の三つの評価人材を考慮する。①実践家評価担当者：実践現場において科学的プログラム評価の知識と技術を身に付けた実践家、②評価ファシリテータ：実践家評価担当者やその他スタッフと共同して評価活動に従事し実践現場で評価が適切に実施されるよう支援すると共に評価結果をコンサルテーションの手段として活用して関与する実践プロ

グラムがより効果的になるよう、実践家とともにその形成・構築・改善・発展を促進する人材、③実践家評価ファシリテータ：実践家評価担当者等が、評価の経験を積み重ね、プログラム評価に関心を高める経過の中で、評価ファシリテータの役割を身に付けた人材

評価人材を育成する方法、それら人材を継続的に支援する体制・アプローチ法について検討する本研究演題では、特に実践家評価担当者から、実践家評価ファシリテータの役割を取るための育成方法、人材支援アプローチ法について検討する。

#### 4) 実践現場との相互交流の場：「評価の場」

実践現場と評価活動の相互交流の場、「評価の場」として次の7場面を設定した。①実践家参画型ワークショップ、②プログラム関係実践家・利用者とのフォーカスグループ面接、意見交換会（含、研修会）、③効果的な取り組みをするGP事例への踏査調査と調査時における意見交換会、④効果モデル形成評価試行プロジェクトの実施、⑥実践家評価担当者実施マニュアルの相互討論と共同執筆、⑦実践家参画型形成評価サイトやメーリングリスト参加による実践家相互、評価者・研究者との意見交換、である。

#### 5) 共通知識の構築と共有の方法

上記3評価課題ステージ、および高齢者・児童・思春期・障害・地域福祉等分野のプログラムに関わる関係者が合同の研究会を組織し、4年間29回の集中的な議論を重ねながら、各取り組みに共通する実践家参画型の評価アプローチ法の検討、および福祉実践家に対する評価人材育成方法、それら人材を継続的に支援する体制・アプローチ法について検討を行い、その内容をガイドライン、マニュアルなどの形で文書化した。

### 3. 倫理的配慮

倫理審査が必要な実証的な評価研究活動については、日本社会事業大学倫理委員会による承認を得て行った。

### 4. 研究結果

実践家参画型評価アプローチ法、および福祉評価人材の育成方法、福祉評価人材への支援アプローチ法について、12プログラムの評価実践の経験から以下の文書に整理した。

#### 1) 実践家参画型アプローチから見たCD-TEP法の「改善」に関わる文書(ガイドライン)

福祉プログラム評価に関わる研究者・教育者にも適用されるCD-TEPガイドブックのうちから、実践家参画型評価に関わる文書を抽出し、12プログラムの評価実践の経験から考慮すべき要素を追加して作成。

#### 2) 福祉プログラムの発展段階・発展ステージ別、プログラムの「改善ステップ」

#### 3) プログラムの「改善ステップ」ごとに設定される「評価の場」

#### 4-1) 評価ファシリテーションにおける「評価の場」の設定方法ガイドライン

#### 4-2) 評価ファシリテータ・実践家評価担当者実施マニュアル

#### 5) 「評価の場」からのフィードバック、「改善」の方法ガイドライン

3つのプログラムの発展段階・発展ステージ、プログラム改善ステップごとに、実践家参画型評価の結果を、どのようにEMC1-5の「改善」に役立てるのか指針を提示する。

#### 6) 評価人材育成、実践家評価支援の方法論ガイドライン

以上、それぞれの「改善ステップ」「評価の場」において実践家参画型評価アプローチ法が構築されつつあるが、それぞれのステップ・場において、OJTで身に付けるべき評価人材の育成方法、福祉評価人材への支援アプローチ法について全般的に整理した。

### 5. 考察

本報告の成果は、実践家参画型評価アプローチ方法論の枠組みを提示し、実践家評価担当者、評価ファシリテータという福祉評価人材の育成と支援の方向性を示すものである。

社会福祉領域における実践領域活動においても、科学的根拠にもとづく効果的な実践(EBP)プログラムを形成し、実施・普及するためには、これらの評価と評価教育・支援活動の取り組みに加えて、それらを可能とする技術支援体制の構築が不可欠である。福祉系大学の役割に注目して、今後検討を深めて行く必要がある。

注記：本研究は「実践家参画型プログラム評価の方法および評価教育法の開発とその有効性の検証」(科学研究費補助金基盤研究A：代表大島巖)による。この研究成果は参加したすべての共同研究メンバーの共同作業によるものである。